

四十七年 郡山市社会教育功労賞受賞  
五十九年 郡山市文化功労賞受賞

平成 元年 第12回福島民報出版文化賞奨励賞受賞  
四年 民友県民大賞受賞  
五年 福島県文化功労賞受賞

〔著書〕

昭和三十九年以降、児童詩集「青い窓」、「コップの底のお母さん」、「キャベツの中の宇宙」、「お父さんはとうめい人間」、「ママもつと笑って」、「子供の深い目」、「おじいちゃんおばあちゃんだいすき」を出版。平成三年には、詩エッセイ集「子供に学ぶ日々」を、平成五年には、「青い窓」のあゆみ「青い窓ことはじめ」を出版



平成5年11月3日 中川治男県副知事より晴れの表彰を受ける筆者（左）

一つのごみ

六年 赤井 真由美

昨日、橋をわたっていた  
ポケットに一つのごみがある  
軽いけど このまま入れておくのも  
しゃくだ

私はそう思つて ゴミを川にすてようとした  
手をはなそうとして  
「いけない」と思い

ポケットにガサツとゴミを入れた  
前に川をそうじしたところだ

ゴミを川にすてることで

おこつていた私なのに

こういう気持ちでついすててしまうのだろう

私は はずかしくなった

人の心つてせまいなあと思つて

家につつ走つて帰つた

「桜っ子詩集」より

ここでは、以前に川掃除をしていた自分と、ゴミを捨てようとした自分が橋の上で出会つたのです。このような自分との出会いを繰り返しながら体験はより深く刻まれ、やがてきちんとしたしつけに変わっていくのでしよう。

禅に「門従り入る者は是れ家珍かちんにあらず」という言葉があります。つまり、外部からきたものは単なる素材であつてその人の血肉にはなりえないというのです。その人の身になるためには広い体験の中から適切な消化液を見つけ、又反芻することが必要です。こんなことを児童詩から学ばせていただきました。

提 言